

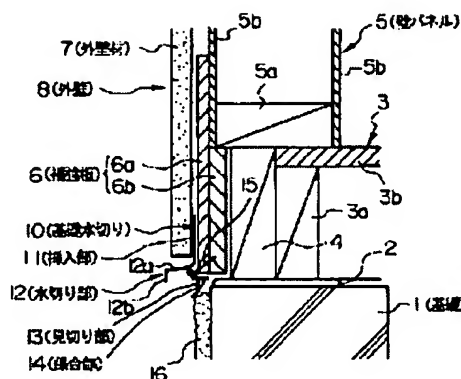
FOUNDATION FLASHIN AND FITTING CONSTRUCTION THEREOF

Publication number: JP2000179057
Publication date: 2000-06-27
Inventor: HANDA TAKUYA
Applicant: MISAWA HOMES CO
Classification:
 - international: E04B1/64; E04B1/64; (IPC1-7): E04B1/64
 - European:
Application number: JP19980356684 19981215
Priority number(s): JP19980356684 19981215

Report a data error here

Abstract of JP2000179057

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide foundation flashing and fitting construction of the foundation flashing which can conceal the vicinity of the upper face of a foundation from the outside, and can easily spread finish mortar on the front face of the foundation, when the foundation flashing is afterwards inserted between an outer wall material and a reinforcing plate. **SOLUTION:** This foundation flashing 10 is provided with an insert part 11, a flashing part 12, and a parting part 13. Hereat, after inserting the insert part 11 of the foundation flashing 10 between the lower end part of an outer wall material 7 and a reinforcing plate 6, by fixing the foundation flashing 10 with the reinforcing plate 6, the flashing function is exhibited by the flashing part 12, and by positioning the extreme end part of the parting part 13 lower than the upper face of a foundation 1, the vicinity of the upper face of the foundation 1 is concealed from the outside by the parting part 13.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-179057

(P2000-179057A)

(43)公開日 平成12年6月27日(2000.6.27)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テーマコード(参考)

E 0 4 B 1/64

E 0 4 B 1/64

C 2 E 0 0 1

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 6 頁)

(21)出願番号

特願平10-356684

(22)出願日

平成10年12月15日(1998.12.15)

(71)出願人

000114086

ミサワホーム株式会社

東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号

(72)発明者

半田 拓也

東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミ

サワホーム株式会社内

(74)代理人

100090033

弁理士 荒船 博司

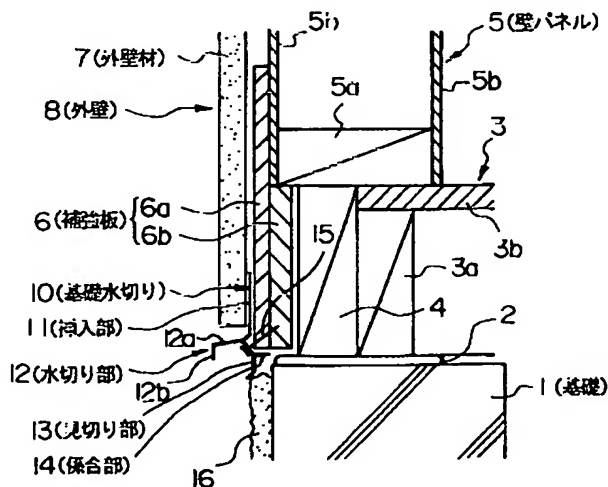
Fターム(参考) 2E001 DA03 FA03 FA21 HD13 MA15
ND14

(54)【発明の名称】 基礎水切りおよび基礎水切りの取付構造

(57)【要約】

【課題】 外壁材と補強板との間に後付けで基礎水切りを挿入した場合に、基礎の上面付近を外側から隠すことができ、しかも基礎の前面に仕上げモルタルを容易に塗布することができる基礎水切りおよび基礎水切りの取付構造を提供すること。

【解決手段】 基礎水切り10を挿入部11と、水切り部12と、見切り部13とを備えた構成とし、外壁材7の下端部と補強板6との間に基礎水切り10の挿入部11を挿入したうえで、該基礎水切り10を補強板6に固定することで、水切り部12で水切り機能を発揮し、また、見切り部13の先端部が基礎1の上面より下方に位置することで、該見切り部13によって基礎の上面付近が外側から隠される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 外壁の下端部に取付けられて、基礎への水の浸入を防止する基礎水切りであって、前記外壁を構成する躯体の表面側に該躯体より下方に突出するようにして設けられた外壁材と、前記躯体の下端部から突出して前記外壁材の下端部を補強する補強板との間に下方から挿入される挿入部と、この挿入部から斜め下方に延びるようにして形成された水切り部と、該水切り部の基端部から下方に延びるようにして形成されて、先端部が基礎の上面より下方に位置する見切り部とを備えたことを特徴とする基礎水切り。

【請求項2】 請求項1記載の基礎水切りにおいて、前記見切り部の上部には、前記補強板の下端部に係合する係合部が形成されていることを特徴とする基礎水切り。

【請求項3】 請求項1または2記載の基礎水切りを外壁の下端部に取付ける基礎水切りの取付構造であって、前記外壁を構成する躯体が壁パネルで形成され、この壁パネルの下端部に、該壁パネルより下方に突出する補強板が設けられ、この補強板に前記壁パネルより下方に突出した外壁材を沿わせてあり、前記補強板と前記外壁材との間に前記基礎水切りの挿入部が、前記見切り部の先端部が基礎の上面より下方に位置するようにして、挿入されていることを特徴とする基礎水切りの取付構造。

【請求項4】 請求項3記載の基礎水切りの取付構造において、前記基礎水切りは、前記水切り部より下方の部位を前記補強板に固定することで、外壁の下端部に取付けられていることを特徴とする基礎水切りの取付構造。

【請求項5】 請求項3または4記載の基礎水切りの取付構造において、基礎の上面には床パネルの端部が設置され、この床パネル上には壁パネルが、前記補強板の下端を基礎の上面近傍に位置させるようにして設置されていることを特徴とする基礎水切りの取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は基礎水切りおよび基礎水切りの取付構造に関するものである。

【0002】

【背景の技術】例えば、実開昭61-120810号公報に示すように、住宅の外壁の下端部に基礎水切りを取付ける場合、基礎上に住宅の床および壁となる躯体を構築した後、該躯体の下端部に基礎水切りを、その下端部が基礎の上面より下方に位置するようにして取付け、その後、躯体に外壁材を取り付けるようにしている。ところで、近年、住宅の躯体を構成する壁、床、屋根等をパ

ネル、屋根パネルを工場等で製造し、現場に搬送して、現場で組み立てるといったパネル工法が一部で採用されている。このようなパネル工法においても、さらに工業化が進み、例えば前記壁パネルに工場等で予め、サッシ枠やサイディング(外壁材)等の部品を取り付けておくことで、現場での部品取付け作業を省略する工法が採用されつつある。

【0003】一方、前記パネル工法では、例えば図3に示すように、基礎1上に床パネル3を設置し、この床パネル3上に壁パネル5を設置するようにしているので、壁パネル5にサイディング7を予め取り付けの場合、壁パネル5の下端からサイディング7が前記床パネル3の略厚さ分だけ突出することになる。このようにサイディング7が突出すると、パネル搬送中にサイディング7の突出した部分が破損する可能性があるので、前記壁パネル5の下端部に、合板等からなる補強板6を該壁パネル5の下端から突出するようにして取り付けおき、該補強板6にサイディング7の下端部を沿わせて補強することによって、上述したような破損を防止するようにしている。

【0004】そして、上記のようなサイディング付きの壁パネル5を、基礎1に設置された床パネル3上に設置した後、該壁パネル3の下端部に基礎水切り9を後付けで取り付けの場合、前記サイディング7と補強板6との間に下方から基礎水切り9の上端部を挿入したうえで、該基礎水切り7を補強板6に釘打ち等によって固定している。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】ところで、上記のように、サイディング付きの壁パネル5を設置した後、該壁パネル5の下端部に基礎水切り9を後付けで取り付ける場合、前記補強板6が基礎1の前面より外側に突出しているため、基礎1の前面に仕上げ用のモルタル16を施工(塗布)する際に、該モルタル16が補強板6の下端面に付き易くなり、このため、モルタル16の施工に十分な注意が必要であり、仮にモルタル16が付いた場合、該モルタル16を除去しなければならず手間がかかるという問題があった。

【0006】また、前記基礎水切り9を補強板6に釘等によって固定する必要があるため、その分基礎水切りの取付け位置を従来の先付けの基礎水切り9に比して若干上方に設定しなければならず、このため、基礎水切り9の下端部が基礎の上面より上方に位置してしまう場合がある。この場合、基礎1の上面付近が外側から見えてしまい、外観上好ましくないという問題があった。

【0007】本発明は上記事情に鑑みてなされたもので、外壁材と補強板との間に後付けで基礎水切りを挿入した場合に、基礎の上面付近を外側から隠すことができ、しかも基礎の前面に仕上げモルタルを容易に塗布す

を提供することを目的としている。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の請求項1の基礎水切りは、例えば図1および図2に示すように、外壁8の下端部に設けられて、基礎1への水の浸入を防止する基礎水切り10であって、前記外壁8を構成する躯体(壁パネル)5の表面側に該躯体5より下方に突出するようにして設けられた外壁材7と、前記躯体5の下端部から突出して前記外壁材7の下端部を補強する補強板6との間に下方から挿入される挿入部11と、この挿入部11から斜め下方に延びるようにして形成された水切り部12と、該水切り部12の基端部から下方に延びるようにして形成されて、先端部が基礎1の上面より下方に位置する見切り部13とを備えたものである。

【0009】前記外壁8を構成する躯体5は、例えばパネル工法で使用される壁パネル5が挙げられるが、これに限ることなく、在来工法における外壁部であってもよいが、この場合、基礎上に設置される土台は含まない。前記補強板6は、例えば合板等で形成されたもので、その下端部は外壁材7の下端部より下方に位置するものである。前記挿入部11は、水平方向に長尺でかつ鉛直に設けられる帯板状に形成されたものである。前記水切り部12は、前記挿入部11に沿って形成されて、水勾配が付与された勾配板12aと、この勾配板12aの先端部に垂下形成されてその先端部で水を切る水切り板12bとから構成される。前記見切り部13は、前記水切り部12に沿って帯板状に形成されたもので、その先端部は外側に向けて折曲される。

【0010】請求項1の基礎水切り10においては、外壁8を構成する躯体5に設けられた外壁材7の下端部と補強板6との間に基礎水切り10の挿入部11を挿入したうえで、該基礎水切り10を補強板6に固定することで、水切り部12で水切り機能を発揮し、また、見切り部13の先端部が基礎1の上面より下方に位置するので、該見切り部13によって基礎の上面付近が外側から隠される。したがって、外壁材7と補強板6との間に後付けで基礎水切り10を挿入した場合に、基礎1の上面付近を容易かつ確実に外側から隠ことができ、よって、基礎1の上面と、そこに設置される躯体5や補強板6との接続部を隠すことができるので、外観が秀麗に仕上がる。また、基礎1の前面には前記見切り部13の下端部まで仕上げモルタル16を塗布すればよいので、基礎1の前面に仕上げ用のモルタル16を施工(塗布)する際に、該モルタル16が補強板6の下端面に付く恐れがなく、よって、基礎1の前面に仕上げモルタル6を容易に塗布することができる。

【0011】請求項2の基礎水切り10は、請求項1において、前記見切り部13の上部に、前記補強板6の下

係合部14は、水平な帯板状に形成されたものであり、見切り部13に沿って形成される。

【0012】請求項2の基礎水切り10においては、外壁8を構成する躯体5に設けられた外壁材7の下端部と補強板6との間に基礎水切り10の挿入部11を挿入する際において、前記係合部14が補強板6の下端部に係合するので、基礎水切り10の上下方向の位置決めが容易になるという利点がある。

【0013】請求項3の基礎水切りの取付構造は、請求項1または2記載の基礎水切り10を外壁8の下端部に取付ける基礎水切りの取付構造であって、前記外壁8を構成する躯体を壁パネル5で形成し、この壁パネル5の下端部に、該壁パネル5より下方に突出する補強板6を設け、この補強板6に前記壁パネル5より下方に突出した外壁材7を沿わせ、前記補強板6と前記外壁材7との間に前記基礎水切り10の挿入部11を、前記見切り部13の先端部が基礎1の上面より下方に位置するようにして、挿入したものである。

【0014】請求項3の基礎水切りの取付構造においては、基礎水切り10の見切り部13の先端部が基礎1の上面より下方に位置するので、該見切り部13によって基礎1の上面付近が外側から隠される。したがって、基礎1の上面と、そこに設置される躯体5や補強板6との接続部を隠すことができるので、外観が秀麗に仕上がる。また、基礎1の前面には前記見切り部13の下端部まで仕上げモルタル16を塗布すればよいので、基礎1の前面に仕上げ用のモルタル16を施工(塗布)する際に、該モルタル16が補強板6の下端面に付く恐れがなく、よって、基礎1の前面に仕上げモルタル16を容易に塗布することができる。

【0015】請求項4の基礎水切りの取付構造は、請求項3において、前記基礎水切り10は、前記水切り部12より下方の部位を前記補強板6に固定することで、外壁8の下端部に取付けられているものである。前記水切り部12より下方の部位を補強板6に固定する場合、釘打ちによって行えばよい。

【0016】請求項4の基礎水切りの取付構造においては、水切り部12より下方の部位を補強板6に固定しており、水切り部12より上方の挿入部11が外壁材7の下端部と補強板5との間に挿入されることで支持されているので、基礎水切り10が確実に外壁8の下端部に取付けられる。また、水切り部12より下方の部位を釘打ちによって補強板6に固定した場合、釘の頭が前記水切り部12によって隠されるので、外観上好ましいものとなる。さらに、水切り部12より下方には水が回ることがないので、上記のように釘打ちの部位からの水の侵入がない。

【0017】請求項5の基礎水切りの取付構造は、請求項3または4において、基礎1の上面に床パネル3の端

強板6の下端が基礎1の上面近傍に位置するようにして設置したものである。

【0018】前記基礎1の上面に床パネル3の端部を設置する場合、該床パネル3の端部を基礎1の上面の略半分に設置し、残りの部分には半土台4を床パネル3の端部に当接するようにして設置する。そして、前記壁パネル5は前記床パネル3の端部上面と半土台4の上面とに設置し、前記補強板6は半土台4と若干の隙間をもって配設する。

【0019】請求項5の基礎水切りの取付構造においては、前記補強板6の下端が基礎1の上面近傍に位置しているので、前記基礎水切り10を基礎1の上面に近づけて取付けることができ、よって、水切り部12の水切り機能が十分に発揮される。

【0020】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施の形態の一例について説明する。図1は、本発明に係る基礎水切りを外壁の下端部に取付けた状態を示す要部の側断面図である。図1に示す基礎1は例えば布基礎であり、その上面には台輪2を介して床パネル3の端部が設置されている。この床パネル3は住宅の躯体を構成するものであり、木材3aを矩形枠状に組むとともに、該枠体の上面に合板等からなる面材3bを貼設してなるものである。

【0021】前記床パネル3の端部は基礎1の上面の略半分に設置されており、基礎1の上面の残りの部分には、半土台4が床パネル3の端部に当接するようにして設置されている。また、前記床パネル3の端部上面と半土台4の上面には、壁パネル5が設置されている。この壁パネル5は住宅の躯体を構成するものであり、木材5aを矩形枠状に組むとともに、該枠体の両面に合板等からなる面材5b、5bを貼設してなるものである。

【0022】前記壁パネル5の表面側における下端部には補強板6が設けられている。この補強板6は、2枚の合板6a、6bで構成されており、一方の合板6aは壁パネル5の下端部に固定され、その下端部は壁パネル5の下端から突出され、該合板6aの下端は前記基礎1の上面より若干上方に位置している。また、他方の合板6bは、合板6aの下端部に貼設されており、該合板6bの上端は壁パネル5の下端面に当接され、下端は合板6aの下端と揃えられている。

【0023】また、前記壁パネル5の表面側には、サイディング(外壁材)7が壁パネル5との間に所定の間隔をもって取付けられている。このサイディング7を取付けるには、壁パネル6の表面に図示しない胴縁を固定したうえで、この胴縁にサイディング7を釘打ち等によって固定することで行われている。さらに、前記サイディング7の下端部は、前記補強板6に沿わせて配設されており、該サイディング7の下端は、補強板6の下端より上

6、サイディング7等から住宅の外壁8が構成され、この外壁8は工場で予め製造され、現場に搬送され、この現場で基礎1上に設置されるようになっている。

【0024】前記外壁8を基礎1上に、台輪2、床パネル3および半土台4を介して設置した後、サイディング7の下端部と補強板6との間に基礎水切り10が挿入される。この基礎水切り10は、塩ビ鋼板によって形成されたもので、図1および図2に示すように、前記サイディング7の下端部と補強板6との間に挿入される挿入部11と、この挿入部11から斜め下方に延びるようにして形成された水切り部12と、この水切り部12の基端部から下方に延びるようにして形成されて、先端部が基礎1の上面より下方に位置する見切り部13と、この見切り部13の上部から内側に水平に延出して形成された係合部14とを備えて構成されている。

【0025】前記挿入部11は、水平方向に長尺でかつ鉛直に設けられる帯板状に形成されており、その下端部は外側に向けて折曲されている。前記水切り部12は、挿入部11に沿って形成されて、水勾配が付与された勾配板12aと、この勾配板12aの先端部に垂下形成されてその先端部で水を切る水切り板12bとから構成されている。前記見切り部13は、前記水切り部12に沿って形成されたもので、水切り部12の下端部から内側に折曲され、さらにその下端部から垂下するようにして形成され、その先端部(下端部)は外側に向けて折曲されている。前記係合部14は前記補強板6の下端部に係合するもので、見切り部13に沿って水平帯板状に形成されている。

【0026】そして、上記構成の基礎水切り10は、水切り部12より下方にある、見切り部13の斜めに傾斜した部位を前記補強板6に釘15を斜め打ちして固定することで外壁8の下端部に取付けられている。このように、水切り部12より下方にある見切り部13の上部を補強板6に固定しており、水切り部12より上方の挿入部11がサイディング7の下端部と補強板6との間に挿入されることで支持されているので、基礎水切り10を外壁8の下端部に確実に取付けることができる。また、前記釘15の頭が水切り部12によって隠されるので、外観上好ましいものとなり、さらに、水切り部12より下方には水が回ることがないので、釘打ちの部位からの水の侵入を防止することができる。

【0027】また、前記基礎水切り10を外壁8の下端部に取付けた状態において、見切り部13の先端部が基礎1の上面より下方に位置しているので、該見切り部13によって基礎1の上面付近を外側から隠すことができる。したがって、基礎1の上面と、台輪2、補強板6の下端部、半土台4の下面、床パネル3の下面との接続部を隠すことができるので、外観を秀麗に仕上げるができる。さらに、基礎1の前面には見切り部13の下端

上端まで塗布する必要がないので、基礎1の前面に仕上げ用のモルタル16を施工(塗布)する際に、該モルタル16が補強板6の下端面に付く恐れがなく、よって、基礎の1前面に仕上げモルタル16を容易に塗布することができる。

【0028】また、サイディング7の下端部と補強板6との間に基礎水切り10の挿入部11を挿入する際において、前記係合部14が補強板6の下端面に係合するので、基礎水切り10の上下方向の位置決めを容易に行うことができる。加えて、前記補強板6の下端が基礎1の上面近傍に位置しているので、前記基礎水切り10を基礎1の上面に近づけて取付けることができ、よって、水切り部12の水切り機能を十分に発揮することができる。

【0029】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の請求項1の基礎水切りによれば、外壁材と補強板との間に下方から挿入される挿入部と、この挿入部から斜め下方に延びるようにして形成された水切り部と、この水切り部の基端部から下方に延びるようにして形成されて、先端部が基礎の上面より下方に位置する見切り部とを備えているので、該見切り部によって基礎の上面付近を外側から隠すことができる。したがって、基礎の上面と、そこに設置される躯体や補強板との接続部を隠すことができるので、外観を綺麗に上げることができる。

【0030】また、基礎の前面には前記見切り部の下端部まで仕上げモルタルを塗布すればよいので、基礎の前面に仕上げ用のモルタルを施工(塗布)する際に、該モルタルが補強板の下端面に付く恐れがなく、よって、基礎の前面に仕上げモルタルを容易に塗布することができる。

【0031】請求項2の基礎水切りによれば、請求項1と同様の効果を得ることができるのは勿論のこと、前記見切り部の上部に、前記補強板の下端部に係合する係合部を形成したので、外壁材の下端部と補強板との間に基礎水切りの挿入部を挿入する際において、前記係合部が補強板の下端部に係合し、よって基礎水切りの上下方向の位置決めを容易に行うことができる。

【0032】請求項3の基礎水切りの取付構造によれば、外壁を構成する躯体を壁パネルで形成し、この壁パネルの下端部に、該壁パネルより下方に突出する補強板を設け、この補強板に前記壁パネルより下方に突出した外壁材を沿わせ、前記補強板と前記外壁材との間に前記基礎水切りの挿入部を、前記見切り部の先端部が基礎の上面より下方に位置するようにして、挿入したので、該見切り部によって基礎の上面付近を外側から隠すことができる。したがって、基礎の上面と、そこに設置される

躯体や補強板との接続部を隠すことができるので、外観を綺麗に上げることができる。

【0033】また、基礎の前面には前記見切り部の下端部まで仕上げモルタルを塗布すればよいので、基礎の前面に仕上げ用のモルタルを施工(塗布)する際に、該モルタルが補強板の下端面に付く恐れがなく、よって、基礎の前面に仕上げモルタルを容易に塗布することができる。

【0034】請求項4の基礎水切りの取付構造によれば、請求項3と同様の効果を得ることができるのは勿論のこと、前記水切り部より下方の部位を補強板に固定しており、水切り部より上方の挿入部が外壁材の下端部と補強板との間に挿入されることで支持されているので、基礎水切りを確実に外壁の下端部に取付けることができる。また、水切り部より下方の部位を釘打ちによって補強板に固定した場合、釘の頭が前記水切り部によって隠されるので、外観上好ましいものとなる。さらに、水切り部より下方には水が回ることがないので、上記のように釘打ちの部位からの水の侵入を防止することができる。

【0035】請求項5の基礎水切りの取付構造によれば、請求項3または4と同様の効果を得ることができるのは勿論のこと、基礎の上面に床パネルの端部を設置し、この床パネル上に壁パネルを、前記補強板の下端が基礎の上面近傍に位置するようにして設置したので、基礎水切りを基礎の上面に近づけて取付けることができ、よって、水切り部の水切り機能を十分に発揮することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る基礎水切りの取付構造の一例を示すもので、要部の側断面図である。

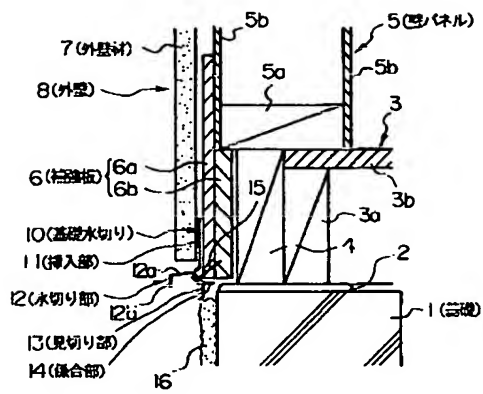
【図2】本発明に係る基礎水切りの一例を示す要部の斜視図である。

【図3】従来の基礎水切りの取付構造の一例を示すもので、要部の側断面図である。

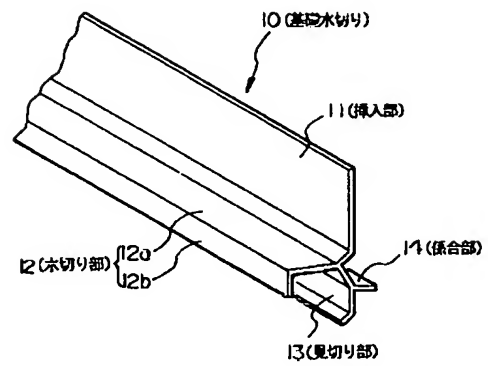
【符号の説明】

- 1 基礎
- 3 床パネル
- 5 壁パネル
- 6 補強板
- 7 サイディング(外壁材)
- 8 外壁
- 10 基礎水切り
- 11 挿入部
- 12 水切り部
- 13 見切り部
- 14 係合部

【図1】



【図2】



【図3】

